



埼玉県中体連卓球専門部マガジン

部活動で強くなる



埼玉県中体連卓球専門部強化部

VOL.9



はじめに

新年度が始まり、新型コロナウイルスが5類へと移行になりました。大会や練習試合など、“コロナ前”の雰囲気はようやく戻りつつあります。各校卓球部顧問の先生方は、新入生や夏の大会に向けての指導に、より一層熱が入られているのではないのでしょうか。

さて、卓球専門部マガジンでは、埼玉県の先生方に執筆を依頼してまいりましたが、今号はいよいよ、埼玉県を越え、**関東1都5県の先生方**に執筆をしていただきました。卓球専門部マガジンは他県の先生方にもご愛読いただいております、執筆を大変快く引き受けてくださいました。ご協力いただきました9名の先生方に深く感謝申し上げます。

そんな名将の先生方をお願いした今回のテーマは、「**関東版・私の卓球史**」です。

今まで卓球部の顧問をしてきて、楽しかったことや辛かったこと、感動した体験や思い出に残る試合など、長い経験の中で感じたことをご自分の卓球の歴史として過去を振り返り、執筆していただきました。ご愛読いただいている皆様の指導のきっかけにつながれば幸いです。

目次

茨城県

1 宮崎 公文「私の卓球史～多くの人との出会いに感謝～」

栃木県

2 中川 親政「私の卓球史～教員16年目でついに卓球部顧問が回ってきた！！～」

東京都

3 富永 信哉「私の卓球史～生徒のラケットもラバーも知らない顧問なのに～」

群馬県

4 蛭間 則彦「私の卓球史」

群馬県

5 松島 広道「誰でも輝ける可能性があるスポーツだと信じて」

神奈川県

6 佐藤 裕輝「部活動の思い出 ～夏季合宿～」

千葉県

7 藤澤 幸祐「私の卓球史～卓球との出会いから挑戦の日々～」

千葉県

8 御堂 恵「私の卓球史～多くの先生方・保護者の方々と一緒に高みを目指した選手たちに感謝～」

千葉県

9 清水 俊輔「私の卓球史」

埼玉県

10 小井戸 健太「部活動指導における最高の思い出ベスト5」

私の卓球史 ～多くの人との出会いに感謝～

常総市立石下西中学校教頭
元結城市立結城東中学校・筑西市立協和中学校女子卓球部顧問

宮崎 公文

大学を卒業し、6年間の小学校勤務の後、中学校に異動となり、女子卓球部の顧問となった。空手や合気道を修行してきた私には全く縁のない卓球との出会いであった。あの日以来、**多くの指導者、選手との出会い**を通して、教員として、指導者として成長させていただいた。ここでは**2人の指導者との出会い**を紹介したい。

1 岡本勝則先生（元島地中学校・玖珂中学校）

平成11年8月、岡本先生率いる山口県にある全校生徒60名の公立学校の女子卓球部が全国団体を制した。月刊「卓球王国」の記事を目にした時から、無性に会いたくなった。11月のある日、岡本先生が筑波大学に研修に来ていることを耳にし、いてもたってもいられず押しかけた。ビール片手に次のことを教えていただいた。

○中学校の部活の成功・失敗は、**中学1年の9月までがカギ**である。4～6月は、1年生を徹底的に指導する。この期間に**余分な技術をいかに身に付けさせないか**がポイントである。

○**マラソンや筋トレは一切しない**。練習を無駄なく行えば、中学レベルで必要な持久力や筋力はつく。

○他校の練習で「いいな」と思ったことは、**すぐに取り入れる**。反対に「ダメだ」と思ったことは**すぐにやめる**。

○平日は、試合形式の練習は一切しない。**基本練習のみ**。

○練習試合は**1人15試合以上**やらないと終わりにしない。

○常に**目的意識**を持たせることである。なぜ、この練習をやっているか、この練習で自分は何ができるようになっていけるのかを**即答できる状態**でなければいけない。

次第に私の体の中が「**夢**」と「**パワー**」でみなぎっていくのを感じた。県大会出場決定戦で敗れて落ち込んでいた私だったが、「よし、新たな気持ちでスタートをしよう」と心に決めた。あの夜から3年半後、全国選抜（鹿児島）で岡本先生率いる島地中学校と対戦できたことは、かけがえのない思い出になっている。

2 宮西春幸先生（元糸島自然塾）

現在、福岡県の糸島といえば、インスタ映えスポットが多くある観光地である。20年前、卓球界で糸島といえば、宮西先生率いる「**糸島自然塾**」というクラブがあることで有名であった。全国ホープス団体を3度制し、「糸島自然塾理論（4つの技術・5つの法則）」「全て多球練習」「変幻自在のサービス」という特徴のあるチームであった。平成16年12月に図々しくもアポを取り、生徒たちを引き連れ、クラブを訪問した。練習場である極寒のプレハブ小屋に足を踏み入れた途端、繰り広げられる熱い光景に目が覚める思いであった。

○**3人1組（球出し、練習者、球拾い）で多球練習**をひたすら続ける。タイマーをセットし、1分で交代。

○球出しは**子供同士**。アドバイスをお互いに行っている。**褒め言葉、励ます言葉**が多く飛び交っている。

○**練習場に姿を現した順**で3人1組を組んで練習を始める。全国で優勝している選手と卓球を始めたばかりの小学1年生が組むこともある。小学1年生のどこにくるか分からない球出しにも、全国優勝している選手は一球もミスすることなく、打ち込んでいる。反対に、1年生には動きを引き出すピッチ、コースで球出ししている。

練習を見ていた私は、涙があふれて仕方なかった。「こんな和気藹々とした雰囲気の中で部活をやることができたら、お互いにプラスのアドバイスを送り合うことができたら、どんなに部活の時間が待ち遠しくなるだろう」と思えた。それから平日は**生徒同士による多球練習**に変更し、私は**全体を見て助言指導**するよう努めた。

その後も糸島自然塾には生徒を連れて3度訪問させていただいた。宮西先生や自然塾の子供たちとの練習を通し、様々なこと（技術戦術理論・練習方法・選手育成等）を学ぶことができた。その学びを学校で活かし始めてから、上達をしない生徒が1人もいなくなり、チームワークも保護者との結束も更に強固なものになっていった。

現在は管理職となり、卓球に携わることはほとんどなくなった。だが、「**生徒たちのために少しでも価値のある教員になりたい**」と思い、生徒や保護者と共に走り続けた18年間は、私の教員人生を支え、活かすものとなっている。これまで私に関わっていただいた多くの方々に感謝したい。

※写真は私が卓球指導を離れると聞いて集まってくれた歴代の協和中学校卓球部員と撮ったもの。彼女たちの「**真剣・必死・夢中**」な想いに私は支えられたからこそ、指導者でいることができた。



1 はじめに

今回、原稿作成依頼をいただき、自分を振り返るよい機会であると思い、依頼をお引き受けしました。専門部の皆様、ありがとうございます。

平成7年に新採で小学校に赴任。当時は先生が部活動を行っており、サッカー部の顧問を中心に、陸上、水泳、野球、合唱等に携わりました。その時から**部活動命**でした。その後平成12年から中学校に異動し野球部顧問を7年間務めました。今思えば、この7年間でたくさんの方々との出会いが、私の指導や考え方の礎となりました。平成19年に真岡西中に赴任。3年間のバスケットボール部顧問を経て、当時の卓球部の顧問の異動の後釜に推していただき、教員16年目、いよいよ卓球部顧問になりました。そこから**怒涛の卓球人生**がスタートしました。私の部活動の取り組んできたことを紹介します！

2 とにかく実践から学べ！ ～一週間ごとのスパイラルメニュー～

まずは実践を通して課題を見出し、それをとことん練習して実践で試す。そして次なる課題を設定する。この繰り返して高みを目指しました。

具体的には

①土曜日：試合（実践）と反省、メニュー設定（卓球ノートの活用）

②日曜日（半日）：規定練習及び課題練習（対人、マシン（もともと1台あり、1年に1台ずつ購入、4台で練習）、多球の3種で）、ラスト20分は上下ゲーム

③平日（4日）規定練習と課題練習、ラスト20分は上下ゲーム

④試合（実践）… の繰り返しとなる。

※課題練習メニュー：戦型別にメニュー例を数十種類提示。それを使ったりアレンジしたりして、自分に合うものを作成。

※時間割振：規定練習30分、マシン30分、対人課題OR多球40分、ゲーム20分

※卓球ノート：課題設定から試合記録（11試合分）、反省メニュー、監督コメントが見開きノート2ページで1日分になっている。製本化しました。

※上下ゲームは毎日ランキングを記入。週ごとに集計し、ランキングでグループ分け。

※基本土日のどちらかは試合を入れた。月に2回休みを入れた。半日練習は2回。

3 とにかく部活動に足を運ぶ！ ～運んだ時間とイメージする強さが比例～

日々の練習は、生徒より早く練習場に行って、どれだけ関われるかである。しょうがないと妥協した時間の割合だけ強くならない。本気で指導した練習が8割なら、選手の強さは到達目標の8割以下ということ。

4 目標は高く！ 常に高みを目指す心を！

私は選手に言います。「最大の目標は全国総体団体優勝」。そこに近づくために出来る努力を惜しまない。『自分に負けるな。己の壁を突き破れ』。チームとしては大会目標、個人として個人技術目標を、現目標に近づくと次の目標を提示します（ただし現目標に到達するのに、2～3か月掛かることもあり）。チームとして、個人として自己目標を常に意識させます。

5 強豪校や素晴らしい指導者と積極的に関わる

とにかく実践を通して学ばせたいことから、**どう素晴らしいチームと試合を組んでいただけるか**が課題。当時、益子中の小林先生の人脈からたくさんの方々を紹介いただいた。広く活動の幅を広げたのは小林先生のお陰であり、本当に感謝しています。試合計画のため、とにかく、日々電話を掛けまくっていた。顧問1年目の新人戦で県ベスト8となり、関東選抜出場を掴み、更なる交流が始まった。

6 部活を強くしたいなら、日々の生活や人間力育成が不可欠

『**「できない」のではなく、「やらない」のである**』この言葉を大事にしています。宿題をやらない生徒は、卓球部勉強場なところで終わるまでやる。挨拶返事を大事にする。係の仕事は率先して行う。生徒会役員や大きな学校の要職に付くことを応援する。等々…。何事にも積極的に前向きに取り組む人間育成が、妥協のない本気の時間を作り出せる人間に育つと考えています。**中学生は無限の可能性を秘めた黄金時代**です。また、中学部活動の大きな目的の1つは、本気の部活動への取組を通して、『**社会に出た時のトップリーダーの育成**』と考えています。中学卒業時に、自信をもって次なるステップに進める人間作りを目指します。これらをなくして強い部活動集団作りはできません。

7 本気の取組を支えてくださる全ての方々に感謝の心を

大目標に向かって進んでいくためには、金銭面、送迎面、お弁当の準備、環境整備、練習のサポート等々、たくさんの方々の支え（サポーター）が必要です。**常の自分たちの取組を支え、見守ってくれることで、今が成り立っている**ことを忘れてはなりません。

私の卓球史

～生徒のラケットもラバーも知らない顧問なのに～

東京都桐朋中学校卓球部顧問
富永 信哉

1 はじめに

長年お世話になっている小井戸先生が、いつものニコニコ顔で「メルマガ」がどうのこうの、富永先生にも書いてもらいたいと仰るので、気軽に引き受けてしまったのですが、過去の「私の卓球史」を拝読し、とても自分の出る幕ではなかったと深く後悔しております。が、これまでお世話になってきた埼玉の先生方への御礼と感謝の思いをこめて駄文を寄稿させていただきます。

2 生徒のラケットもラバーも知らない私

それは、山梨の小瀬体育館で開かれた関東大会の監督者会議の始まる前のことだったかと思います。隣席の先生から「T君の使っているラバーは何ですか？」と聞かれたのです。私は素直に答えました。**「知りません」**と。質問された先生は、予期せぬ答えに「え？」と驚かれています。私は駆け引きをしたわけではありません。本当に知らなかったのです。T君のラバーだけではありません。これまで34年間卓球部顧問を名乗っていますが、**生徒のラケットもラケットも誰一人わかりません**。もちろん、粒かアンチか裏か表かくらいはわかりますが、ラバー名は知りません。私はそんな顧問である故、この場合は場違いなのです。

ではなぜ、そのような私が、卓球部の顧問でいられるのか。それは多くの先生方のように**毎日の練習メニューを考え、球出しをし、技術指導をしていない**からです。勤務校は私立中高男子校で、卓球部は中高一緒に練習をしています。部員数は中高あわせると70～90人程度おり、練習日を固定せず、週2日以上を自分で決めて練習することになっています。35年前に新任教員として赴任したときから、今に至るまで、**練習メニューは高校生の主将を中心に考えるのが伝統**で、中学1年生の新入部員の基本練習も**すべて上級生**が行っています。私自身は、公立中学・高校で卓球部員でしたが（そう履歴書に書いたために顧問になったようです）、指導者もおらず、団体戦1回戦突破が目標みたいな卓球好きな少年に過ぎず、高校生の卓球の理論についていけるわけもなく、生徒の出すサーブの回転も意味不明なこともあり、**高校生が仕切るという部の伝統を受け継がせてもらった**のでした。

3 知ったかぶりのアドバイスは慎む

私が埼玉の先生方と知り合ったのは、いまから10年ほど前のこと。たまたま附属小学校からの進学者に卓球経験者が揃った年があり、秋の多摩地区研修大会で無欲の優勝をしてしまったのがきっかけです。その代は破天荒な行動の生徒が多く、私も声を荒げたり、他校の先生方を真似て、見よう見まねで生徒からみれば言われるまでもないことをアドバイスしたために、だんだんと生徒との関係が崩れていきました。明らかに集中力が切れている生徒に「**集中しろ**」と声をかけたとき、「僕は集中しています。何で余計なことを言うのですか」と反発してきたことがありました。それはその生徒の未熟さでもありましたが、同時にふだんの練習を高校生に任せっきりになっている私が、知ったようなことは言った結果でもありました。そのときから、練習を見ていない以上、**試合の時には謙虚であるべき**と心に誓い、ネガティブなこと・萎縮させることは極力言わず、**いかに伸び伸びとプレーできるようにするか**を考えてきました。信頼関係ができた代であれば、「**僕にはこう見えた**」と伝えれば、きちんと受け止めてくれるようになりました。

また、私自身がオーダーを組むのが下手なので、**外れることを見越して、一番あたりたくない選手とあたった時にどんな攻め方をするか、どんなサーブを出すのか、レシーブをするのか**、予め考えさせるようにしました。自分がアドバイスできない以上、生徒たち自身がライバル校の選手の対策を練っていなければなりませんから、**生徒たちにミーティングをさせた**わけです。結果的にそのことが生徒自身の自覚を高め、チームの結束を強くし、東京の代表決定戦を第6位ですり抜けて、4年続けて関東大会に出ることにつながったと思います。また、埼玉の先生方に練習試合などに呼んでいただき、遠征させてもらったことも、子どもたちに自覚を持たせるきっかけとなり、強豪校にコテンパンに負けることで、東京の激戦区に挑む心構えを作ることができました。北川辺中・騎西中の小井戸先生、戸田中・新曽中の大塚先生、日進中の鈴木先生、和光二中の倉林先生をはじめ、多くの埼玉の先生方に本当にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

4 埼玉県にまつわる思い出

8年前の山梨関東大会。桐朋はリーグ1位で通過したものの、トーナメント初戦で日進中に完敗。その後代表決定戦にまわり、初戦を勝って鴻巣北中との決定戦となりました。鴻巣北中とはそれまで何度か対戦させていただいてきましたが、いつも完敗。顧問の青木先生にもアドバイスをいただき、お世話になっていました。恐らく格下の桐朋に負けるわけにはいかない、と鴻巣北の選手は硬くなっていたのだと思います。桐朋は予想外の善戦で、2-2で5番のエース対決にもつれました。しかもフルセットで、得点は9-9。気合入りまくりの桐朋のエースTがここから2本連取して、まさかまさかの勝利。実力は明らかに鴻巣北が上でしたが、**勝負というのはその通りにならない**こともあることを、身をもって体感したのです。

また、越谷関東の年の東部会長杯。小井戸先生が靴の履き替えの注意をしていたにもかかわらず、U君が観客席から外履きに履き替えて階段を下りてきたのを見つけ、体育館の雑巾をお借りして、二人で体育館正面の大階段を雑巾がけしたことも忘れられない思い出です。同級生たちは、**あの雑巾がけのおかげで、夏の越谷関東に出ることができた**、と固く信じているようです。

その後、東京には有望選手を集める学校が次々に登場し、もはや大半が中学はじめて伸び伸びが身上の桐朋のような学校が、関東などと語るのは夢物語になりつつあります。それでも、**可能性がわずかでもあるのであれば、その夢を叶えるべく、生徒たちの頑張りを応援していく**のが、私のスタイルなのだと思います。退職まであと何年かあります。埼玉県先生方、引き続きよろしく願いいたします。

【今までの主な戦績】

- ・全国大会（団体）・・・・・・・・・・1回（宮城県宮城郡利府町）出場
- ・関東大会（団体）・・・・・・・・・・4回（山梨県甲府市、群馬県前橋市、埼玉県越谷市、神奈川県相模原市）出場
- ・関東選抜大会・・・・・・・・・・5回出場
- ・東京都選手権大会団体ベスト8・・4回

1 はじめに

教員になって7年目に初めて中学校に赴任して、サッカー部に1年、翌年、ようやく卓球を持たせてもらうことになりました。その後の大間々東中の7年間、小学校をはさんで大間々中にて8年間、また、大間々東中に戻って2年、合計17年間、顧問として卓球部を持たせてもらうことができました。その間、沢山の生徒や保護者、先生方と出会うことができました。練習試合をしたり、合宿をしたり…。全てが楽しい思い出になっています。試合は勝ったり負けたりいろいろありますが、その中でたくさんの方の事を学ばせていただき、今の自分があるのだと確信しています。卓球の指導法や卓球への考え方はもちろんですが、生徒指導や保護者対応など、顧問として、教員としての心構えみたいなものもたくさん教えていただいた気がします。顧問を持ち始めたころは、自分のチームを勝たせたくて、とにかく生徒に厳しく指導していた時期もありました。当時の卒業生と話すと、負けて走らされたことや、勝っても負けてもベンチに戻ると説教された話などきりがありません。(もうそろそろ時効になると思いますが) もちろん、今も厳しく指導する場面はありますが、伝え方と指導の方針は変わってきたと感じています。ただ、**楽しく卓球をやってほしいということ、そのためにはどうしたらいいか**を考えさせることはずっとやってきたと思います。17年間で退部は3人。**縁あってせっかく選んで入った部活動を最後まで続けてほしい**という願いはずっとあります。もちろん、**できれば高校でも続けてほしい**、という思いもあります。

気が付けば、周りの顧問の先生方はどんどん若くなり、教え子や対戦したチームの選手が顧問ということも増えてきました。自分がいろいろ教わったことを還元しなければと考えるようになりましたが、時代の変化やコロナ禍で、先生方とじっくり交流する機会も以前に比べるとかなり減ってきていると感じています。そんな思いもありまして、今回の企画に参加させていただきました。

これから、部活動が大きく変化していくことになるとは思いますが、どんな形にせよ、**子どもたちと一緒に同じ夢に向かって夢中になれる、こんな素晴らしい仕事はない**と思っています。そんな機会を子供たちに作ってあげられるようにできることをやっていきたいと思っています。

2 思い出に残る試合

私にはいくつか、思い出に残る「**抽選**」があります。私はくじ運が悪く、どうしたらいいくじが引けるのか、真剣に悩んだこともありますが、大事な時に素晴らしいくじに巡り合えたことがありました。

平成28年の群馬関東の代表決定戦の抽選です。地元関東で群馬県から+1枠の4枠出場できる年に4チームとも代表決定に残ることができました。最後の3チームを決める戦いですが、ここは都県の配慮はありません。フリーの抽選になるのですが、なんとその**4チームすべてが吸い寄せられるように同じブロックになる**という、「**超奇跡的**」な組み合わせがありました。地元から全中に行かせるために、何かやったんじゃないか?と思う人もたくさんいたかもしれません。他のブロックには強豪チームがひしめく中、群馬の4チームから全中に出場できるブロックができました。勝ったことがないチームもありましたが、何とかその中から代表を勝ち取ることができました。

3 おわりに

顧問を持ち始めたころ、当時の県の委員長が同郡市にいて、「**自分のチームだけ強くなっても、地区が強くならないと駄目**」といって合同練習会をよくやってくれました。その練習会に参加すると他地区や他県からチームが来ていて、いつも刺激をもらっていました。それをモデルにして、今は自分で企画をしていろいろなチームを招いて練習会を企画するようになりました。自分の学校、地区はもちろんですが、群馬県、関東としてお互いに勉強し合い、強化していきたいという思いがあります。都合が合うときに、群馬までお出かけください。お待ちしております。

誰でも輝ける可能性がある スポーツだと信じて

群馬県前橋市立第六中学校卓球部顧問
松島 広道

私も競技者であった当時そうでしたが、卓球部を選択する生徒は、小学校期までになかなか自分の活躍する場を見つけれなかった生徒が多いように感じます。だからこそ、毎年入部してきた生徒には、「卓球は誰でも輝ける可能性のあるスポーツだ」と強く訴えています。いきなりいろんなラバーがあることに触れ、それを組み合わせることにより、一人一人にあったプレースタイルで努力できれば、輝ける可能性があると言います。フォアアンチバック粒のカットマン等、私が携わったチームは結果的に笑われるようなチーム設計が多いですが、私なりに真剣に考えた結果、...
これまでを振り返り、選手の二年半の局面で大事にしているポイントを整理します。



1 最初が肝心 ～入部直後のプレースタイルの見極めと生活指導～

過去の指導者講習会で受けたご指導で、**入部直後に三年生には自分で頑張らせ、新入生を見る**といった内容がありました。ここ数年私も同じことを実施しています。やはり、ここで**感覚の指導、体の使い方の指導**をある程度しておけると、その後の伸びが格段に違います。私の場合、**バック打ち→バックツツキ→フォアツツキ→フォアフリック and バックフリック→フォア打ち→ドライブ**の順番で教えていきます（サーブプレシーブは同時進行です）。バック打ちから教える理由は、比較的**コートインが容易い**のと、**肩の回し方を身につけやすい**というところからです（バックで肩が極端に回りにくい選手はペン粒を連想します）。この流れで指導しながら、ミート打ちが得意か、回転をかけるのが得意かを見たり、コミュニケーションをとったりしながら、将来的にはフォア・バックにどのラバーが合うかを見極めていきます。最近では、この段階では、まだ表や粒を貼ることは控えています。これを貼ってしまうことによる本来育てられた**打球感覚**の失いはその後の代償が大きいからです。ドライブが得意ならヴェガイントロ、ミートが得意ならエクステンド、その間ならラウンデルと言った具合で、ライトなテンション裏ソフトでスタートさせます。ラケットは比較的板が柔らかめで軽めな佳純ベーシック、アルティウス、ブラックバルサが多いです。

ここまで入部直後に手を入れてあげると、一見うるさくなりがちな**生活指導**もずっと入っていきます。技術の伸びの礎は心にあると私も思っていますが、やはり心から入りすぎると、ついてこないのが現代っ子なのかと最近感じます。入りは**適度に技から入り、根っこの心をしっかりと育てていく流れ**が個人的にはいつもうまくいきます。

2 代替わり近辺 ～フィットした用具選択～

上述の用具で一年間努力したら、代替わり直前に自分に合った用具選択をしていきます。なんとなくですが、ヴェガイントロ→ラクザ系 or 粘着テンション、ラウンデル→ファスターク or クァンタム、エクステンド→表、変化表、粒となっていることが多いです。それに合わせて板も選手にフィットしそうなものを選択していきます。なんとなく**貼るラバーから板を選ぶ流れ**が多い気がします。

用具をここまで手を入れてあげると、代替わり直後のよくあるトラブルも少ないように感じます。**自分に合った用具で協力して頑張る流れ**を新人前に仕組んでいきます。幹部（部長等）には役割を自覚させる声かけもして、新人戦に向かっていけるようにします。

3 三年生 ～最後は気持ちよく終わらせる～

自分の代になると、**成功体験**を得ることもありますが、**失敗体験**の方が多くなる生徒もかなりのパーセンテージでいます。なかには、練習試合に自転車で向かう際、腹痛により途中で立ち止まってしまう生徒もいました。冬場の話です。しかしながら、その生徒は昨夏の奇跡の立役者となっています。

上述のような状態になった生徒や保護者に対して、**どう声をかけるか**が教員の醍醐味かなと感じています。伝えたい直球な思いはあれど、**変化球やボールの見せ球で様子を見て、いけるときには直球で勝負するイメージ**でしょうか。

この生徒は、市の春季大会で、過去の新人戦で一番自信喪失することになった相手に対して大勝することができました。選手も私も**運**が良かったです。その過程では見守ったり、いろいろな声かけをしたりしてきましたが、「**あのとき苦しんだけど、頑張ってたよ**」と心の底から思ったことを伝え、夏まではほっておいても自分で伸びていきました。乗り越えた瞬間を見逃さないセンスはこれからも磨いていきたいです。ほかに、夏の総体が近づくと、できる限り、**一人一人に対し、意識して、思い出話や努力して伸びたことを語りかける**ようにします。

と、この項ではさんざんエピソードを語っておきながら最後は用具です。

最後まで、裏ソフトだった生徒に対しては、最後はディグニクス！！やっぱり素晴らしいです。中学生の弱インパクトで確実にそれぞれの技術に下駄を履かせてもらえます。サーブ用にペン粒の裏面に貼らせたこともあるくらいです。これを使わせてもらえることが可能そうな家庭には、協力してもらえるように伝わりやすい言葉を選びながら説得します。**心も用具も、ゴール（選手の目標に対する）も最後は気持ちよく終わらせてあげるように努めたい**と毎年頑張っています。生徒たちが卓球部で輝く場を見つけれられたと思えるように。

今回は私が長年続けてきた取り組みとして「夏期合宿」を紹介します。
夏期合宿は、関東大会や全日本カデットに出場した選手でさえお別れ会のときに部活動の1番の思い出として挙げることもあるので、私にとっても毎年の大切な思い出です。

夏期合宿はどこでやる？

練習は三浦潮風アリーナを借りて行う。空調設備が整った会場で暑さを心配することなく活動できる。宿泊は三浦グローバルエコヴィレッジ（以前の三浦ふれあいの村）。何でも用意されたホテルではなく、シーツを敷くのもご飯の配膳をするのも自分たちで行う。

小田中と西本郷中(前任校)の合同合宿



夏期合宿はいつやる？

関東大会が終わった後の夏休み中に行う。新チーム始動の基礎づくりとしての意味合いが大きい。もちろん、全中に行くことになったら強化合宿に変わる！

合宿で何をやる？

整列の練習、挨拶の練習、伝達の練習、役割分担を考える、カレー作り、そして卓球の練習

・整列の練習

チームが出来上がっていない時期は整列すら上手いいかない。キレイな半円を作れない、時間がかかるなどの課題を解決していく。

・挨拶の練習

チームの挨拶は声を揃える。礼のタイミングや角度を揃える。アドバイスを受けるときは動作を止めて集中して聞く。返事は相手に聞こえるように。

・伝達の練習

顧問の指示が通るように部員同士で確認する習慣を身につける。

・役割分担を考える

合宿に必要な係を考え自分たちで準備をする。

・カレー作り

グループ活動を行う。同じ材料、同じ道具、同じ環境で作るのに出来上がるものが違うのはなぜか!? 準備、片付け、相談、協力、指示、伝達、意思疎通、信頼関係の構築、部活動に必要な集団活動はすべてカレー作りに入っている!?

・卓球の練習

毎年、練習内容は決めておらずその代の生徒の状況で考える。

2年生は基礎基本の見直し。フォーム修正。目標設定を行う。

1年生は先輩と1球練習ができるようにする。

OB・OGによるレッスン。



卒業生からの指導は普段より真剣!



日替わりでたくさんの卒業生が来てくれます

合宿をして良かったことは？

- ・多くの**卒業生**が手伝いに来てくれる。来てくれた卒業生も現役の頃は卒業生のお世話になっている。**与えられることと与えることの好循環**が起きる。
- ・**卒業生**たちが返ってくる場所になる。
- ・**専門家**が来てくれることもある。
- ・**新チームとしての自覚**が芽生える。合宿で部長を決めることもある。
- ・顧問が**宿泊行事の企画・運営**に慣れる。修学旅行や自然教室の担当になることも多く、合宿の経験が役立った。

できるだけ保護者の負担を少なくするため、合宿の段取りは旅行者等には手配せず私がすべて行います。参加人数にもよりますが、交通費、宿泊費、食費、会場代込みでおよそ一人15,000円程度。結構大変なので毎年やめようかと悩むのですが結局毎年続けています…。ここまでなくても、先生方が子どもたちの主体性を信じて行動を任せ、失敗を許容し、成功を喜び、近くで見守り続けることがステキなチーム作りにつながると思います。

1 卓球との出会い

私は、学生時代に卓球をやっていた訳ではなく、教員になってたまたま赴任した学校で、前任の顧問の先生が退職されたため卓球部の担当になったことがきっかけでした。その学校が松戸市立第六中学校で、関東や全中出場を目指す卓球強豪校でした。当時の松六中は、クラブチームにも所属し、部活動後も練習を重ねる選手も多くいたのですが、幸いなことに卓球経験のない自分でも受け入れてくれ、クラブチームの生徒にありがちな身勝手な行動もなく、活動してくれました。

私自身の話になって恐縮ですが、自分の職歴を振り返ると、大学では教育学部の教職課程で学び、教員を目指していました。しかし、いざ大学4年になると、別に興味をもっていたマスコミ関連の仕事を目指すようになり、希望を変更し就職活動を行いました。運よく地元の放送局に内定をもらい、教職とはまったく別の道の仕事に就きました。その後1社をはさみ30代半ばのころ、改めて今後の人生を考えたとき、もともと目指していた教員の道にチャレンジしたいという気持ちが強くなり、教員採用試験を受けてみようと考えました。そう思ったのが募集締め切り10日前。慌てて書類を取り寄せ出願し、採用試験に臨んだところ、最終的に2次試験まで進み、合格できました。試験勉強なども突貫工事でまさかまさかだったのですが、これも運なのかなとその時は思いました。

そして、最初の話に戻ります。赴任した学校が卓球強豪校・松戸六中であつたというのも今思えば運がよかったんだと思います。実力とやる気のある生徒に出会い、卓球未経験の自分ができることは、強豪校との練習試合を設けたり、優秀な指導者の指導を受ける機会を作ったりすることだと考え、**まずは人脈づくりに励みました**。幸いなことに民間企業で働いていたこともあるので、強豪校への電話（営業）やクラブチームのコーチとの関係づくりや保護者との対話などは苦にはなりません。最初に担当した3年生が総体に臨むまでの3～4か月間で、強豪校とのパイプや様々な人との出会いがあり、今の卓球部顧問としてのめりこんでいく素地ができたんだと思います。この代は、最終的に県大会で最後の関東決定戦で敗れ関東大会出場はかないませんでした。最後に部長の子から「先生を関東大会に連れて行きたかったです。」と言われ、申し訳ない気持ちとともに、少しのうれしさもあり、これからの**生徒たちのために部活動指導をもっと頑張ろう**と思いました。と同時に運だけでは勝てないので、自分自身も**技術的な理論や、書物から戦術論を学ぶなど、自らの指導力を高める努力**も行うようになりました。卓球部の出会いから最初の総体まで短期間ながら密度の濃い経験は自分の成長のためにも欠かせないものでした。

2 異なる2校での指導・顧問の願い

【松戸市立第六中学校】

今も千葉県の代表的な強豪校である松戸六中ですが、毎年のようにホープスからの経験がある選手が入るわけではありませんし、入ったとしても団体戦6人が組める人数が入るはずありません。六中での指導の軸は、**中学校から卓球を始めた生徒と、クラブチームの生徒との“融合”**です。



クラブチームの選手には驕ることなく、**仲間のレベルアップを図れるように協力して練習する**。(自分のための練習はクラブでやってもらう。)初心者は、経験者に恐れることなく、**自分の実力を高めることができるように目標をもって練習する**。このことは徹底しました。ただ、当時の六中は多いときは男子だけで部員が50名ほどになることもあり、場所と時間の確保には苦慮しました。全国関東を目指す生徒から、運動が苦手な「卓球部なら、、、」と入っている生徒までいるのです。様々な実力や目標をもった部員をまとめるため、生徒には常に「**感謝の気持ち**」を忘れることが無いように伝えてきました。当たり前なことなのですが、部活動は学校が認め

てくれて、親が応援・協力してくれて、一緒に活動する仲間がいてくれて、、成り立っているものです。そんな当たり前のことでも、中学生には言葉にして伝えないとなかなか理解できないものです。松戸六中は、強い弱い関係なく、ともに活動する仲間がいてこそ成り立っているということを常に忘れずに活動してきました。

～うれしかった試合～

①2016年12月 千葉県新人戦 決勝戦 松戸六中3-2常盤平中

就任3年目。はじめて県大会優勝した試合です。この代の生徒には経験者はいなかったのですが、やる気のある生徒が多く、クラブに通い始めたり、活動時間外にも自主的に練習するなど努力する生徒が多かった代でした。対戦相手も同じ松戸市内の学校で、松戸市のレベルも高く切磋琢磨し合えたことも大きかったです。市内予選で敗れた常盤平中に県新人戦という最高の舞台でリベンジもでき感動も一入でした。

②2018年8月 神奈川関東 全中代表決定戦 松戸六中3-1益子中

就任5年目。自身初めて夏の全中に出場を決めた試合です。このチームは実績ある経験者+努力家の中学からの生徒で組んだまさに融合チーム。しかし、他県のレベルも非常に高く、関東全体の層が厚い時期でした。手に汗握る接戦を勝ち抜いた生徒たちのすばらしさに感動しかありませんでした。

【松戸市立六実中学校】

松戸六中から異動したのは同じ松戸市内の六実中学校でした。当時市内大会でも上位に来ることはほとんどないようなチームでしたが、幸いなことに卓球経験のある先生が顧問を数年間勤めていたこともあり、基本的な動きはできている学校でした。一番気をつけたことは、**実力面で前任校の当たり前を持ち込まない**ということでした。その代わり、**練習時間や休みの見直し**など、保護者にとって変化が生じることについては説明を怠らないように慎重に取り組みました。

六実中では基礎基本の動きの練習から集中的に取り組みました。就任1年目にコロナ禍に突入してしまったのですが、こども幸いなことに近隣で外部指導をしていた旧知のクラブチームのコーチの方が、コロナの影響で指導ができなくなったため、六実中の指導に力を貸して下さることになったのです。六中のときのクラブの生徒とは理論は異なるのですが、初期設定の重要さと、攻撃の基本の指導がしっかりとできるようになり、生徒もメキメキと力をつけてきました。この学校でも**運**に恵まれたのかなと思います。コロナで大会の中止や縮小など生徒に悔しい思いをたくさんさせてしまいましたが、就任3年目で東京関東出場（男子）、関東選抜出場権獲得（女子）など生徒の頑張りが実ることができました。六実中でももちろん指導の軸は「**感謝の気持ち**」です。コロナもあって協働活動も少なく、受け身な生徒が多いのですが、「**当たり前でできていることは当たり前ではなく、たくさんの人の尽力でできている**」ということを常に伝えながら、少しでも成長できるように頑張っています。



～うれしかった試合～

2021年7月 千葉県総体 関東大会代表決定試合 六実中3-1横芝中

異動後最初に入学した生徒たちの最後の夏の総体でした。新人、春季大会と5位で関東まであと一步というチーム。総体でもここまでの試合は苦戦続きでいつ負けてもおかしくないという状態でした。しかし、経験者ゼロの雑草軍団がこの試合では、思い切ったプレーをして相手を終始圧倒し関東大会出場を決めました。自分自身も六中のときはまた違う喜びでした。頑張った選手、保護者をはじめコロナ禍に支えてくれた皆様に感謝という一戦です。

【今までの主な戦績】

全国中学校卓球大会	(松戸六中) 2018年
全国中学選抜卓球大会	(松戸六中) 2017年～2019年
関東中学校卓球大会	(松戸六中) 2017年、2018年 (六実中) 2021年
関東中学選抜卓球大会	(松戸六中) 2015年、2017年～2019年 (六実中) 2021年、2022年：中止だが権利獲得

1 はじめに

現在私は千葉県卓球専門部の強化部に所属しています。コロナのために、なかなか指導者講習会が開催できず、はがゆい思いをしていました。そんな時、埼玉県の強化部の先生方で卓球部マガジンを作成していると聞きました。「県大会ベスト8の壁をどう突破するか！」や、「選手を指導するにあたって心がけていること」など、多くの指導者が知りたいであろう内容、指導方法について、経験豊富な先生方が執筆されており、とても感動したのを覚えています。そんな卓球部マガジンを私が書くことになり、とても驚いています。(同時に、皆さんに還元できるような内容が書いているかどうか、とても心配です…)

今回のテーマは「私の卓球史」。振り返ってみると、卓球のルールすら知らなかった私が、関東大会に出場できたのは、私の周りの多くの先生方のご指導や保護者の方々のご支援と、一緒に高い目標の達成に向けて努力を積み重ねた選手たちのおかげです。この紙面をお借りして、私が卓球部の顧問になってからであった多くの方々へ感謝の気持ちを込めて、私の卓球史について書いていきたいと思えます。

2 卓球の顧問になったとき ～たくさんサポートしてくださった保護者・先生方～

卓球部の顧問になって、何をどう指導すればよいのか、ラバーやラケットについてもさっぱりわからず途方にふかしていたとき、保護者の方々が、「もしよければ休日の指導お手伝いしますよ。」「知り合いの卓球できる仲間も練習に誘いますよ。」など、たくさんサポートしてくださいました。

また、顧問になってすぐ、隣の中学校の卓球部顧問をされていた K 先生から練習試合のお誘いを受け、その時に、「わからないことたくさんあると思うけど、なんでも聞いていいからね。」と温かいお言葉をいただいたのを今でも覚えています。

おかげで、私も安心して楽しく部活動経営をすることができただけでなく、素直で頑張り屋の選手たちと県大会出場を目標に頑張ることができ、とても良い思い出です。(この経験がなかったら、今も卓球の指導を一生懸命やっていたかはわかりません。)

この春から新たに卓球部の顧問になり、不安だったり困惑されていたりする先生がいらっしゃるかもしれませんが、きっと皆さんの周りに、**皆さんのことをサポートして下さる方々が必ずいらっしゃいます**ので、最初はその方々を頼って、顧問としての自身の成長につなげてみてください。

3 隣の中学校 (臼井西中学校) へ異動して ～年中夢球～

異動先は、隣の中学校である臼井西中学校。先述の K 先生と一緒に卓球部を持つことができました。全員中学校スタート (ちなみに私が勤務した7年間、一人も卓球経験者は入部しませんでした) で、関東・全国を目指すという高い目標を掲げ、土日ほぼ休みなく、**年中夢球**で練習していました。

K 先生のご指導でとても印象に残っているのが3つあります。1つ目は、**練習場へ行ったら球出し**をすること。試合形式の練習時間以外は、選手1人ひとりにほぼ**休まず**球出しを行っていました。球出し後は、できていること、**改善すべきこと**、**今後の練習で意識すべきこと**など、短時間ではありますが、一人ひとりと対話をする時間をもっていました。2つ目は、**レギュラー選手以外の選手も大切に**すること。勝ちたいがために、レギュラー選手への指導に熱が入りがちですが、K 選手は遠征などでレギュラー選手しか連れていけなかった翌週の練習は、レギュラー選手以外の部員により多くの時間球出しをしたり、時には私がレギュラー選手の遠征に帯同し、K 先生がほかの選手の練習を見たりすることもありました。3つ目は、**オーダーの考え方**です。異動した年の県総体初戦、強豪チームと当たることになりました。K 先生はノートにそのチームとの対戦成績をすべて書き出し、誰が誰と当たると勝つ確率が高いか、そして相手チームのオーダーはどのパターンが多いか分析し、私に「だから、このオーダーで行こうと思うけど、どう思う？」と聞いてきました。

K 先生と一緒に部活動の指導ができたのは1年間だけでしたが、K 先生から指導者としての在り方、卓球の指導方法について多くを学ぶことができました。その後の6年間は、K 先生の指導方針・方法を貫きつつ、他の先生方や講習会等で教えていただいた指導方法等を取り入れて練習し、そして本当に頑張り屋でひたむきな子どもたちのおかげで、充実した、かけがえのない時間を過ごさせていただきました。

4 栄中学校へ異動して、いま ～夢に挑戦～

7年間お世話になった学校から、栄町立栄中学校へと異動し、この春で3年目になります。一緒に指導させていただいている藤江先生は、私の拙い文章では語れない素晴らしい先生です。特に、**子どもたちへの深い愛**と、**卓球に対する熱い情熱・探求心**に感銘を受けることばかりです。まだまだ勉強不足な私は、藤江先生から日々勉強させていただいています。

栄町には栄卓球スポーツ少年団があり、栄中学校の生徒も所属して練習しています。地域移行の問題、部活動の練習時間の問題など、現在、部活動経営が今後どうなっていくのか不透明ですが、スポ少のコーチの方々と連携し、(独断ですが) 県内No.1の協力体制の保護者の方々のサポートに感謝し、休まず練習を頑張る子どもたちと一緒に、全中出場という夢に挑戦していきます。

私の卓球史

元・千葉県八千代市立大和田中学校卓球部顧問
清水 俊輔

1 顧問になったきっかけ

中学生の時に、人生で最も影響を受けた小泉晴美先生と出会って、卓球を始めました。**小泉先生の生き方や考え方に共感**をして、教員を目指すようになりました。

2 教員になってから

初任校の千葉市立草野中学校では、「小泉先生の教え子」というイメージで皆さんから見られ、かなりのプレッシャーを感じたことを覚えています。ある先生からは、「あと3年で結果が出なかったら、そのまま行くよ」とも言われ、内心すごくあせっていたのを覚えています。結果、3年目によく関東選抜に出させてもらい、わずかな達成感を感じていました。

2校目の八千代市立高津中学校では、初めて異動して3年目に「夏の関東大会」に出場することができました。しかし、春の県大会で勝ったチームに決勝で負け、関東大会で「あと一勝で全国大会」の場面で冷静になれず負けました。その次の世代から春の大会までは、上位進出するが「夏だけ勝てない」時期が続きました。正直、「なんで勝てないのだろう」とずっと思っていました。周りの先生方は「卓球未経験者」の先生も多いなか、色々なことを教えられているはずの自分のチームが「最後の大会では負ける」ことに愕然としていました。その中で、勝っている先生方の「何気ない日常のコメント」から自分に足りないものを本気で考えました。自分の指導は「**何でもできるけど、何にもできない選手**」を育てていたにすぎなかったのだと感じました。最後の夏はプレッシャーが他の大会よりも大きいため、いかに「**考えずにできることを増やせるか**」が大切だと気がつきました。そのためには「徹底」することが大切だと考え、**練習・練習試合・オープン大会・大切な大会すべてを一貫して指導**するようにしました。高津中学校の最後の7年目で「全国大会」出場できた背景には、「**自分の考え方**」が**変化した**ことがあるのではないかと考えています。

3校目の八千代市立大和田中学校では、コロナ禍の中での指導になりました。多くの学校で練習が制限されていたと思いますが、本校も例外はありませんでした。何度も何度も「緊急事態宣言」「蔓延防止措置」などのあおりを受け、満足に練習することができませんでした。その中でも「**出来ることは精一杯やる**」という**信念**のもと、練習に取り組み、結果的に関東大会に出場することができました。

教員になってから、様々な出会いがあり、様々なことを考えとことにより、「今」があると考えています。

3 最後に

教員になって、色々な経験をさせてもらいました。結果、たどり着いたことは「**一人でやっているわけではない**」ということです。顧問・選手・保護者・地域の方々・他のチームの先生方など、様々な場面で関わることが多くありました。ある一定の大会までは、「一人の力」でも勝ち抜けていましたが、県の上位・関東大会・全国大会に関しては、「一人の力」では到底たどり着けません。これまでの経験で、「**協力者**」の**大切さ**に気がつきました。この先、どんな形で卓球とかかわっていくかはわかりませんが、そのことだけは忘れないようにしていきたいと思っています。

私は第5号において卓球部顧問をしていて「悔しかった思い出」を1位～5位のランキング形式で掲載させていたいただきました。今回はそれとは逆に「うれしかった思い出」を同じくランキング形式で紹介いたします。なお、このランキングは今から10年前～現在までの約10年で経験させていただいた思い出に特化して掲載させていただきます。

うれしかった思い出：第5位 県大会（団体戦）で目標だったベスト8に初進出

卓球部の顧問になったのは今から十数年前。当時の私は一度、**県大会でベスト8**に入りたいと思ってチーム作りを行ってきましたが、幾度も幾度もベスト8進出の前には大きな壁が立ちはだかりました。そんな中、挑み続けて7回目の平成26年度の新人大会において遂にその壁を乗り越えることができました。乗り越えられた要因はというと、練習試合のやり方を変えた点にあります。



それまで練習試合は県内のチームと行うことがほとんどでしたが、前年に東部地区大会に優勝し、県の強化練習会でも上位に食い込み、県でもいよいよ勝負ができるチームが作れたと思って挑んだ県大会でありましたが、新人も学総もベスト16止まりでした。その結果を受けて何か変化が必要と感じ、試合をする相手を変えみようと思ったことがきっかけ（師匠であった中学校時代の恩師である青木先生に相談させていただいた）でした。そして県外のチームに足を運ぶようにしました。この時期に特にお世話になったのが「群馬県」で、県の強化練習会に呼んで頂いたり、蛭間先生の大間々中や、クラブチームの伊勢崎TTCによくお邪魔させていただきました（その後の9年間でベスト8以上に15回進出させて頂きました）。

うれしかった思い出：第4位 県大会で2度の決勝進出



県大会ベスト8に進出することが出来始め、次に目標としたのが「**県大会での決勝進出**」。

ここまで何度かベスト4にも入れましたが、決勝進出となるとなかなか難しいことでした。そんな中、運もあったと思います。平成28年度の新人大会（男子）と、令和元年度の新人大会（女子）で2度、決勝に進出することができました。決勝の相手はどちらも強いので優勝とまではいきませんでしたがとても良い経験になりました。自慢ではありませんがクラブ所属選手や小学校から卓球を経験してきた選手が一人もいない状況でここまでやれたのも私自身、指導の自信になっています。この当時に、良くお邪魔させていただいたのが東京都の富永先生の桐朋中や折居先生の小金井一中、富田先生の春江中、倉田先生の寺島中、栃木県の中川先生の真岡西中、茨城県の三國先生の下館南中、群馬県の西井先生の群馬中央中でした。特に桐朋中には10回ぐらい行かせていただきました。他県との交流が強化に繋がったことに間違いはないと思います。



この当時に、良くお邪魔させていただいたのが東京都の富永先生の桐朋中や折居先生の小金井一中、富田先生の春江中、倉田先生の寺島中、栃木県の中川先生の真岡西中、茨城県の三國先生の下館南中、群馬県の西井先生の群馬中央中でした。特に桐朋中には10回ぐらい行かせていただきました。他県との交流が強化に繋がったことに間違いはないと思います。

うれしかった思い出：第3位 初の関東選抜大会出場

やはり上位大会進出は格別な感動が得られます。私の**初関東選抜**は平成26年度の新人大会でベスト8に進出し、その後の決定戦に勝利したのが最初の思い出です。今でもその時の決定戦の試合内容は覚えております。この当時から練習試合などで特にお世話になっていたのが、千葉県由市川八中の関根先生、高津中の清水先生、東邦大東邦中の黒川先生、松戸六中の藤沢先生、東京都の府中四中の神村先生、神奈川県万騎が原中の大橋先生、鶴間中の斉藤先生、西本郷中の佐藤先生、他多数の先生方でありました（これ以降、関東選抜は中止の年もありましたが、出場権を含めると9回出場させて頂きました）。



うれしかった思い出：第2位 関東大会に初出場

関東選抜初出場が3位なら、2位は「**関東大会初出場**」になります。私の関東初出場は平成28年度の群馬大会になります。この当時、顧問をしていて本当に夢が叶ったと感じた瞬間でありました。この関東大会には私が尊敬する勝瀬中の石井先生と一緒に参加させて頂けたこともうれしい思い出の一つにもなっております。本当に良い思い出です。このあと関東大会には団体・個人合わせて5回出場させて頂きました。今後も出場できるように生徒と共に頑張っていこうと思います。



うれしかった思い出：第1位 男女で関東大会に出場



10年間で最もうれしかった思い出は、「**男女での関東大会出場**」で、それは昨年夏の夏の県大会でした。埼玉県はコロナ禍になって県大会が男女で開催日が変わるため、男子が1日目で関東出場を決め、女子が翌日に決めるという展開になりましたが、男子が決めた翌日の女子が私たちも絶対に負けられないという状況になっていたこともあり、このとき

の女子の緊張感が、凄まじかったです。その分、関東出場を決めた後の女子の全員の安堵感や高揚感もまた凄まじいものでありました。

以上、ここまで私の現在～今から10年前までで、うれしかった思い出をランキング形式で紹介させて頂きました。ここに書いたすべてが素晴らしい思い出です。この10年間でここまで充実した時を過ごせたのも、それまでに出会えたすべての方々のおかげです。これからも自分のチームも強化しつつ、今度はお世話になった方々のために、そしてお世話になり続けている埼玉県のために何かを通して恩返ししていこうという気持ちを改めて持ちました。

～編集後記～

第9号「**関東版・私の卓球史**」、いかがでしたでしょうか。関東の名将の先生方は、選手や指導者との出会いやつながりを、とても大切にされていることが改めて分かりました。選手と時間をかけて真正面から向き合い、目標達成に向けて指導者も選手も努力し続ける……。編集者も、1人の卓球指導者として大変参考になる内容でした。執筆していただいた各都県の先生方、本当にありがとうございました。

今号刊行を機に、関東の様々な先生方にも執筆をしていただければと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

コロナ禍は落ち着きつつありますが、卓球専門部マガジンはまだまだ続きます。次号は果たしてどんな内容になるのでしょうか…？また次号でお会いしましょう！